

令和4年度 夢の樹みどり 事業報告書

1 総括

令和4年度もここ数年と同様に新型コロナウイルス感染症拡大防止への対応に追われる1年となった。令和2年度から引き続き、入所施設の利用者3名は年間を通して全く通所できず、利用者が楽しみにしている夏の恒例行事川遊びも感染拡大防止のため中止となった。また、令和5年1月には利用者、職員含め計7名が感染し、3日間利用者の通所を停止したが、幸い重症者はいなかった。

重要課題であるPDCAサイクルに基づいたチーム支援と活動内容の充実については、連携協働体制の構築や個別支援計画を意識した支援の実施と検証など、まだ不十分な点は多いものの、少しずつ改善してきているように感じている。次年度も引き続きこの課題に取り組んでいきたい。

2 事業概要

- | | | | |
|------------|------------------|-----|-----------------|
| 1) 施設名 | 夢の樹みどり | | |
| 2) 事業種別 | 生活介護 | | |
| 3) 所在地 | 東京都小平市小川町1-744-1 | | |
| 4) 経営主体 | 社会福祉法人 未来 | | |
| 5) 利用定員 | 40名 | | |
| 6) 利用現員 | 45名(令和5年3月31日現在) | | |
| 7) 法人認可年月日 | 平成14年12月11日 | | |
| 8) 事業開始年月日 | 平成29年4月1日 | | |
| 9) 職員 | (令和5年3月31日現在) | | |
| | 管理者 | 1名 | |
| | サービス管理責任者 | 1名 | (管理者兼務:常勤換算1.0) |
| | 生活支援員 | 22名 | (常勤換算19.1) |
| | 看護師 | 5名 | (常勤換算3.3) |
| | 嘱託医 | 1名 | |

3 基本理念

- 1) 一人ひとりの自己実現の支援
- 2) 互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
- 3) 安心と希望の持てる生活

4 基本方針

- 1) 日中活動の保障
- 2) 豊かな生活の支援
- 3) 利用者一人ひとりの主体的な生活の支援
- 4) 個別支援計画に基づいた計画的な支援
- 5) 安心できる将来への支援

5 実施事業(活動内容)

- 1) 就労支援事業
 - (1) 資源回収
 - (2) 公園清掃

- (3) 使用済み小型家電回収
- (4) ポスティング
※年間を通して受注なし。
- (5) 書類封筒作成
- (6) 紙袋底板入れ
- (7) 缶・ペットボトル潰し
- (8) その他軽作業

2) 生活支援事業

- (1) レクリエーション (月2回実施)
- (2) 音楽教室 (月2回実施)
※新型コロナウイルス感染拡大の影響により、年間を通して中止。
- (3) 旅行 (年1回実施)
- (4) 運動プログラム (週3日～5日実施)
※新型コロナウイルス感染拡大の影響により、プールは年間を通して中止。
- (5) ストレッチ (週4日～5日実施)
- (6) 夕方生活支援事業 (週3日実施)
※新型コロナウイルス感染拡大の影響により、お風呂、プール、カラオケ、マンガ喫茶は年間を通して中止。

3) 行事

- 4月 利用者永年勤続表彰式
- 5月 運動会 (於：小川西町グラウンド)
- 6月 ゲーム大会
- 7月 中止 (新型コロナウイルス感染拡大の影響による)
- 8月 夏祭り
- 9月 ボッチャ大会
- 10月 旅行 (新潟県・群馬県方面)
- 11月 文化祭 (於：東大和市民会館ハミングホール)
- 12月 クリスマス会
- 1月 初詣 (於：小平神明神宮)
- 2月 人形劇・豆まき (於：小川町一丁目地域センター)
- 3月 映画鑑賞

6 日 課

開所・送迎	8:30～9:50
朝礼	9:50～10:00
活動	10:00～12:00
(作業・運動PG)	
昼休み	12:00～14:00
昼礼	14:00～14:10
活動	14:10～15:30
(作業・運動PG)	
実績記入・お茶	15:30～15:50
終礼	15:50～16:00
送迎・清掃	16:00～17:00
GPミーティング	17:00～17:15
全体ミーティング	17:15～17:30

7 重点課題・目標に対する成果と課題

1) 活動

(1) 目的意識の共有及びコミュニケーションの強化によるチーム支援の実施

① 職員間の連携協働体制の構築

活動や利用者の状況等について施設長、主任、リーダー、職員間の情報共有や意見交換を密に行うほか、職員一人ひとりが自己の担当以外の業務にも関心を持ち、相互に業務を補完し合う。

【成果と課題】

施設長、主任、グループリーダー間のコミュニケーションはよく取れており、活動や利用者の状況等に関する意見交換を密に行った。また、リーダー層と職員、職員同士のコミュニケーションも昨年度に比べると積極的に行われるようになり、現場や会議等での情報共有や意見交換の頻度が増えてきている。ただし、業務全般を視野に入れ臨機応変に他の職員を手伝うなどの姿勢は職員によって差がみられており、連携協働においてはまだ不十分である（自分の担当業務以外の関心の薄さが課題である）。

② 支援計画の目的意識の共有と計画に沿った支援の実施

利用者の状況や希望に合った適切な個別支援計画を作成し、利用者一人ひとりの支援計画に沿って支援を実施するとともに、その成果などについて丁寧に検証を行う。

【成果と課題】

昨年度は不明確であった個別支援計画の長期目標、短期目標、支援上の重点の区別に改善がみられたほか、計画の評価も概ね丁寧に作成することができた。しかし、他害などの問題行動の原因探求がされていないなど、利用者の状況分析や支援内容の検証が不十分な点もまだ見られている。

(2) 活動内容と支援の充実

1 Fー

① 車いす利用者等の身体に機能麻痺がある利用者の負担軽減と機能の維持、向上。

長時間の座位を避けるため、毎日2時間程度マットなどで体を伸ばしての静養やストレッチを行う。

【成果と課題】

車いす利用者3名のうち2名にストレッチ及び歩行訓練を行ったほか、残りの1名は休憩時間にマットの上で体を伸ばす取り組みを行った（この1名は他で理学療法を行っているため、当事業所でストレッチ及び歩行訓練は実施していない）。ストレッチに参加した2名のうち1名は、四つん這いの姿勢を維持できる時間が前年度と比べ大幅に増え、残りの1名についても、継続した歩行訓練により、職員の介助のもとラジオ体操に立位で参加できるようになった。

② 利用者の主体性の向上

朝礼などの司会を当番制にして利用者が参加できる場面を設け、活動に向けた意欲と主体性の向上を図る。

【成果と課題】

1 Fグループの全利用者が交代で朝礼等の司会を行った。自発的に会を進行しようとする利用者や職員と一緒に会を進める利用者など、利用者の状況によって参加の形は様々であるが、多くの利用者にとって、人前で話すことや、注目される緊張感や役割を持つことが自分に自信を持つための良い経験になっていると感じている。

① 利用者の情緒面の安定及び不安感の解消

一人ひとりにあった環境設定や、分かりやすい予定の伝達により見通しを持ちやすくすることで、利用者の情緒面の安定を図る。他害の可能性のある利用者に対して、不安感の解消など気持ちの安定化を図るとともに、他のコミュニケーション手段の獲得に向けた支援を行う。

【成果と課題】

朝礼時などの場面で作業道具を示し見通しをもちやすくしたほか、視覚情報が多くて不安定になる利用者に対してはパーテーションを活用するなど気持ちの安定に向けた取り組みを継続している。経験による予定の把握や環境への慣れもあり、多くの利用者の情緒面が安定化傾向にある。また、意思疎通の困難さが他害などの問題行動の一因と推察される利用者6名の内3名に対し、9月から試験的に活動内容を書いた2枚の絵を用いて自分の希望するものを選択する取り組みを始めた。当初は反応がないことが多かったが、2か月ほど継続すると3名とも一方の絵を指で指し示すことができるようになってきた。しかし、絵と活動内容の関連性を理解しているかどうかは不明である。この方法を継続することによって、絵と活動内容の関連性を経験的に学習する手法をとるか、実際に活動に使用しているものなどもう少し関連付けが容易なものを用いるかなど、今後の実施方法についての検討が必要と考えている。

1 F・2 F 共通—

① 利用者の安全確保の徹底

見守りや職員配置の工夫を行い、他害、離接等の事故防止を徹底する。

【成果と課題】

前述のように多くの利用者の情緒面が安定化傾向にあり、消失には至っていないものの、他害や離接は長期的に見ると減少している。また、2名以上での車椅子利用者の介助や他害や離接の可能性のある利用者の見守りの徹底などにより、大きな事故に至るケースはなかった。

② 健康管理の充実

ア 通所前の検温やマスク着用の声かけ、建物内消毒等の新型コロナウイルス感染防止対策を徹底して行う。

イ 月々の体重データや健康診断結果に基づき、必要に応じて運動プログラムを実施するとともに、家庭と連携して食事量の調整等を行う。

【成果と課題】

ア 手洗い、消毒、換気、検温、マスクの着用等の基本的な感染対策を継続して実施していたものの、1月中旬に新型コロナウイルス感染症が集団発生し（利用者2名、職員5名）、感染拡大防止のため、1月23日から25日まで利用者の通所を停止した。また、9月に希望する利用者、職員に対して新型コロナウイルス4回目ワクチン接種を実施したほか、12月にインフルエンザ予防接種を実施した。

イ 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、前年度に引き続きプールは実施できなかったが、体重の減少または増加防止が必要な利用者10名が週3日～5日のウォーキングを実施した。この利用者10名の内1名に体重の減少（6キロ減少）がみられ、他9名は体重の減少はみられていないが、増加は防止できた。

③ 新規の活動の開発

これまでの活動の継続、充実を図るとともに、利用者の嗜好、特性等に応じた活動の開発を行う。

【成果と課題】

作業活動では、4月より小型充電式電池の分別作業を新たに開始した。新しい作業ということもあり、作業の理解に少し時間を要する利用者もいたが、参加した利用者10名の内、4名は電池を種類毎に分別し絶縁テープを貼る工程をスムーズにできるようになった。また、近隣地域の美化及び住民との交流を目的として、6月より地域清掃を開始した。熱中症のリスクを考え、夏場の暑い時期は実施をしなかったが、それ以外の時期は週2回の頻度で継続して実施し、清掃中に近隣住民からお花をもらうなどの交流もみられた。その他の活動としては、前年度に引き続き、毎月2回利用者の楽しみとなる活動を行った。新型コロナウイルス感染防止のため、屋内で絵画、塗り絵、DVD鑑賞、カードゲームなどを行った。また、10月から、近隣の無料貸し出しスペースを借り、音楽に合わせて体を動かす活動を開始した。計12名の利用者が参加し、笑顔も見られ楽しんでいる様子であった。

2) 人材育成

- (1) 管理職候補者及びリーダー層の育成
- (2) 出納職員の育成
- (3) 職員の専門性向上
- (4) 連携協働体制の強化

【成果と課題】

- (1) 日々の業務を通じて、利用者支援や職員指導、その他業務全般に必要な判断基準や対応方法をその都度指導し、全般的にスキル向上が見られた。また、2名に給付費の請求業務に関する学習会を実施したほか、内1名に労務管理の学習会を実施した。
- (2) 出納職員2名に対して、予算執行管理の方法や科目仕訳ミスの見つけ方など計算書類の見方について実務を通して指導を行った。また、出納職員候補者1名に対して仕訳方法、経理規程、計算書類の構造など基本的な経理の知識に関する学習会を実施した。
- (3) 職員全般的に利用者との良い関係性が作られているほか、個々の利用者の特性の把握やリスク管理、また個別支援計画を意識した支援や記録などの基本的な支援スキルの向上が見られた。一方、要領を得ない報告や字が雑で判読できない記録が散見された為、引き続き改善に取り組む必要がある。
- (4) 7-1) - (1) - ①に記載。

3) 経営管理

(1) 介護給付費の安定確保

1日平均利用者38.8人(45人在籍、出勤率86%)を目標(令和3年度1日平均利用者36.3人)とするほか、重度障害者支援加算の算定人数を15名から20名に増やす。また、新型コロナウイルスの影響で通所していない利用者に対しては在宅支援を行い、給付費を安定的に確保する。

【成果と課題】

1日平均利用者数は36.2名となり、前年度の36.3名よりやや減少した。前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大が利用実績に影響し、目標には達しなかった。しかし、4月より重度障害者支援加算の算定人数を15名から20名に増やしたことにより、給付費収入は約1億4,080万円となり、前年度比約780万円増となった。

(2) 経費削減

使用していない活動場所(特に利用頻度の高い場所)の電気やエアコンの消し忘れをなくし、節電を徹底する。また、印刷イメージの確認を徹底し、ミスプリントを減らす。

【成果と課題】

印刷イメージの確認による印刷ミスの防止は概ね出来ており、節電意識も全般的に向上しつつあるが、利用頻度の高い場所（玄関等）の灯り消し忘れは未だみられており、徹底はできなかった。

（3）計画的な予算執行

毎月の月次試算分析を正確に行うとともに、必要に応じて補正を行い、年間を通して計画的に予算執行を行う。

【成果と課題】

毎月の月次試算分析に基づき、概ね計画的に予算を執行することができた。緊急的な支出も発生しなかった。

8 その他の成果と課題

1) 社会福祉法人六三四と夢の樹みどりの利用者の合同送迎実施

他市居住の利用者の送迎を効率化させるために、社会福祉法人六三四と夢の樹みどりの利用者の合同送迎を平成30年2月から継続して実施している。

2) 職員の相互派遣（対象：夢風船）

生活介護事業所間の連携強化及び支援の充実を目的とした夢風船と相互に職員を派遣し合う取り組みは、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、令和3年8月以降実施していない。

9 事故等報告

1) 走行車両へのクレーム

令和5年2月 利用者宅の近隣住民より、「車両が走行中に撥ねた水がかかった。また、スピードを出し危ない運転をしていた。」とのクレームを受けた。謝罪のうえ、先方の要望に従って警察に状況報告をしたが、事故として受付されなかった。当該職員含め全職員に改めて安全運転について周知した。

10 開所状況

- | | | |
|---------|-------------|-----------------|
| 1) 開所期間 | 自 令和4年4月1日 | 至 令和5年3月31日 |
| 2) 開所日数 | (1) 週開所日数 | 5日間 |
| | (2) 開所時間 | 午前9時～午後4時 |
| | (3) 年間延開所日数 | 242日間（前年度 241日） |
| | (4) 平均活動時間 | 7時間 |

11 利用状況

- | | | |
|-------------|--------|--------------|
| 1) 利用者延人員 | 8,715人 | (前年度 8,355人) |
| 2) 1日平均利用人員 | 36.2人 | (前年度 36.3人) |
| 3) 体験実習者延人員 | 2人 | (前年度 0人) |
| 4) 1日平均実習人員 | 0.1人 | (前年度 0人) |
| 5) 実習者実人員 | 1人 | (前年度 0人) |

12 利用者状況（令和5年3月31日現在）

1) 年齢

20歳未満	0名
20歳以上30歳未満	24名
30歳以上40歳未満	12名
40歳以上50歳未満	5名
50歳以上60歳未満	2名
60歳以上70歳未満	0名
70歳以上	2名

2) 障害の状況

愛の手帳1度	2名 (内身障手帳所持2名)
愛の手帳2度	38名 (内身障手帳所持3名)
愛の手帳3度	2名
愛の手帳4度	2名 (内身障手帳所持1名、精神保健手帳所持1名)
身体障害者手帳1級	7名 (内愛の手帳所持6名)
精神保健福祉手帳2級	1名 (内愛の手帳所持1名)

障害支援区分

平均障害支援区分 5.1 (前年度 5.1)

3) 通所手段

送迎車利用	45名 (内1名家族送迎、内1名交通機関利用と併用)
家族送迎	1名 (送迎車利用と併用)
交通機関利用	1名 (送迎車利用と併用)

4) 居住状況

管内居住 34名 管外居住 11名

5) 性別

男性 36名 女性 9名

1.3 利用者工賃

平均工賃 1人 月額 : 5,038円 (前年度 4,379円)
日給 : 278円 (前年度 252円)

1.4 夕方生活支援実施状況

1) 実施日数 125日 (前年度 123日)

2) 利用者 (令和5年3月31日現在)

(1) 利用者数	23人 (前年度 27名)
(2) 利用者延人数	663人 (前年度 673名)

3) 支援者 (令和5年3月31日現在)

(1) 職員	42人
(2) 職員延人数	607人

4) 内容	(1) 室内遊び 26回
	(2) パソコン 22回
	(3) ドライブ 22回
	(4) 映画鑑賞 20回

(5) ボウリング	18回
(6) 料理	11回
(7) 散歩	5回
(8) 初詣	1回
(9) スイカ割り	1回

1.5 生活支援プログラム実施状況

1) 実施日数	(1) 年間実施日数	220日 (前年度 220日)
	(2) 週平均実施日数	4.2日 (前年度 4.2日)
2) 利用者 (令和5年3月31日現在)	(1) 利用者数	12人 (前年度 12名)
	(2) 利用者延人数	972人 (前年度 852名)
3) 支援者 (令和5年3月31日現在)	(1) 職員	25人
	(2) アルバイト	5人
	(3) 職員延人数	786人
	(4) アルバイト延人数	186人
4) 内容	(1) ウォーキング	972回
	(2) プール	0回

1.6 環境の整備

定期的に施設内外の清掃を実施し、年間通して清潔な環境を保つことができた。

1.7 防災

災害時避難訓練を年2回実施した。3月に参加を予定していた当法人と小平手をつなぐ親の会との共催の防災訓練については、新型コロナウイルス感染防止のため規模を縮小した形での実施となり、前年度に引き続き今年度も不参加となった。